

二十代前半までさまざまなアルバイトを経験しましたが、その中で自分自身、一番やる気が無くなる場面が、自分の意見を全く取り入れてもらえないこと、自分で工夫をさせてもらえないことでした。もちろんバイトという立場の僕にそこまでの裁量を与える必要は無かったと思います。しかし、業務を行うことの「目標」「目的」を伝えられず、ただ単純に「作業の指示」だけをされると、何のためにこの作業を行っているのか分からなくなり、目的が分からないがゆえに、「もっとこうした方が効率的なのでは？」もっと楽しくないのであ？」など自分なりの工夫をするということもできず、業務はとも退

「なぜを伝える」

はやし 高生
林

屈な「単純作業」になり、やる気もどんどん下がっていくのでした。このようなバイト経験から、社内では「なぜを伝える」「考えることを奪わない」と伝え続けています。春の入社式でも「先輩社員のみならず、新入社員を単純作業者にしないようにしてください」と全社員に向けて毎年同じ話をしています。

先輩が「単純作業」を指示するにも、これを「なぜ」やるのかを伝えることで、新入社員も自分の考えでいろいろな工夫をし、業務もさらに改善され、それが会社に貢献できたという喜びになり、「単純作業」が「楽しい仕事」に変わっていくと思います。そんな、考えることを楽しめるような職場環境を社員とともに作っていきたいと思っています。

(エイチーム社長)